

平成26年度 第1回川崎市教育改革推進協議会（摘録）

日 時 : 平成26年5月28日（水）18:00～20:00

場 所 : 第3庁舎15階 第2会議室

出席者 : 小松委員、高木委員、伊藤好子委員、杉村委員、松本委員、小原委員、山崎委員、
伊藤民子委員、宮津委員、巴委員、門倉委員

（事務局）渡邊教育長、原田総務部長、小田嶋教育改革推進担当部長、丹野教育環境整備推進室長、
高梨職員部長、芹澤学校教育部長、渡部生涯学習部長、江間総合教育センター所長、
野本企画課長、岡野企画課担当課長ほか

欠席者 : 田中委員、大下委員、

傍聴者 : なし

司 会 : 野本企画課長

〔配布資料〕

資料1 川崎市教育改革推進協議会設置及び運営要綱

資料2 川崎市教育改革推進協議会及び専門部会委員名簿

資料3 かわさき教育プラン第3期実行計画平成25年度重点施策評価シート

資料4 「かわさき教育プラン～第3期実行計画の延長及び
次期プラン策定に向けた考え方～」概要版及び計画本編

資料5 次期かわさき教育プランの構成及び計画期間（案）

資料6 平成26年度 川崎市教育改革推進協議会スケジュール

資料7 平成25年度第4回川崎市教育改革推進協議会の摘録

〔次第〕

1 開会

2 委員紹介 . . . 資料2

3 教育委員会あいさつ（教育長）

（協議題）

4 「かわさき教育プラン第3期実行計画平成25年度版の点検評価」について
. . . 資料3

5 次期かわさき教育プラン策定に向けた考え方及びプランの全体像について
. . . 資料4、5

（報告）

6 今年度の川崎市教育改革推進協議会について . . . 資料6

協議題 「かわさき教育プラン第3期実行計画平成25年度版の点検評価」について

（企画課長説明）

重点施策1について

委員 ・ いじめや不登校の問題は早期発見、迅速な対応が大切である。学校生活の中ではトラブル

ルが起きてしまうこともあるが、社会性を学びながら、子どもは成長していく。

- ・共生＊共育プログラムや児童支援コーディネーター専任化の取組により、学校現場の教育力が高まってきていると感じている。

委員 ・平成26年度は、養護学校から支援学校になるなど、特別支援学校にとって大きな転換があった年となった。中央支援学校に小学部が設置されたり、田島支援学校は、施設の改修もされた。今後は、教員の育成がより重要となってくる。

委員 ・重点施策1「共に生き、共に育つ環境を創り、心を育む」とあるが、インクルーシブ教育について、今後どのように考えているか。

事務局 ・インクルーシブ教育システムの構築は重要な課題として、認識している。障害のありなしに関わらず、一人ひとりの子どもたちへの教育的ニーズに適切に対応していくことが必要。通常級に在籍する児童生徒への支援など、適切な支援を行っていけるよう今年度から「支援教育」という言葉をつかっている。組織としても、従来の特別支援教育担当を「支援教育担当」として配置、拡充している。

委員 ・神奈川県では、高校でのインクルーシブ教育の推進を検討している。小中学校の特別支援教育と高校のつながりが、今後課題になってくる。

事務局 ・知的障害を伴わない発達障害の生徒が高校に在籍していることは認識している。従来、高校段階での特別支援教育が十分に理解されていないところがあった。生徒に合った支援を考えていきたい。

委員 ・児童支援コーディネーターについては、その役割や専門性、力量、組織の中でのポジションなどが重要となってくる。学校側が児童支援コーディネーターをどう捉えて配置しているのか。

事務局 ・児童支援コーディネーターを誰が務めるかは重要である。誰を任命するかも含めて、学校の計画を聞いて、きちんと機能するように推進校を選んでいる。

委員 ・中学校においては、生徒指導担当や特別支援教育コーディネーター等の役割があるが、教員の年齢層に偏りがある中で、適正のある人を選んでいくのはなかなか難しい。
・小学校と中学校で、子どもたちに対する目線を一緒にしたことで、小中連携が進んだように思う。

委員 ・これまで、共生・共育を掲げてきたことなどは特別支援学校として心強く感じてきた。小中高とも手を携えてきた。全体を考えたプランにしていきたい。

委員 ・行政施策中心の記載になっており、各学校で取組を充実させている場合もあるが、ここには現れていないのが残念である。

重点施策2について

委員 ・地域活動団体を運営支援の主体とした学校施設の有効活用について、今後の方向性はどうか。行政から支援はあるのか。

事務局 ・可能な団体があれば委託していきたい。

委員 ・学校の防犯力の向上が課題として、捉えられているが、スクールガードリーダー、スクールサポーターの巡回など、学校現場の安心につながっている。

事務局 ・学校安全の確保は、ボランティアに支えられている。今後も警察と連携しながらボランティアを有効に活用していきたい。

委員 ・「指標の推移」のページはどのように評価するのか。本質を捉えられているのか。

事務局 ・指標の表し方など、課題として捉えている。次期プランでは、よりよい評価の仕方を検討していきたい。

重点施策3について

- 委員 ・指標として、「わからないことを自分で調べようとする割合」が用いられているが本来、物事を考える力、論理的思考力、正しい判断ができる力などを量るべきではないか。
- 委員 ・朝食の喫食率が出ているが、「栄養が満たされた朝食となっているのか」把握しているのか。朝食の内容を調べる機会があるとよい。
- 事務局 ・朝食の内容までは、把握していない。
- 委員 ・「センター研修受講生の研修の満足度」は、98.1%と高いが、学校がどうよくなったかという効果を今後示してほしい。
- 委員 ・「わかる」と「できる」はイコールではない。研修後のフォローアップが大切であり、そういう仕組づくりに取り組んでもらいたい。
- 事務局 ・研修がどう学校で活かされているか、今後調査することを検討したい。
- 委員 ・「道であった外国人に話かけられたとき、何とか英語で話そうとする割合」とあるが、ここでいう外国人とは、欧米人のことだけか。外国人はもっと幅広い。
- 委員 ・教員採用試験を地方会場で行っているが、川崎市に馴染みの薄い教員への川崎市の教育指針に関する研修は、どうなっているのか。
- 事務局 ・教員採用募集パンフレットでも、川崎の教育が目指すものを発信し、共感してくれる方に受験してもらえよう工夫している。初任者研修でも川崎の教育について、しっかり教え、川崎の教育としての自覚を持たせている。今後、子どもたちに川崎を我がまち・ふるさとと思ってもらいたいし、教員にも川崎が大好きであってほしい。
- 委員 ・そういう意味では、教育プランが川崎の教育の真髄を表すものとして活かされるとよい。

重点施策4について

- 委員 ・高校では、工業科、生活科学科等の専門科もあり、職業体験やインターンシップを従前から行っている。
- 委員 ・全体的に高校の取組の書き込みが少ない。もっと入れるとよい。
- 委員 ・中学校区地域教育会議でも会議がコーディネーター役となって、職業体験の受け入れ先を紹介している。今後もその仕組を活用してほしい。
- 委員 ・幸区に慶応大学のK2タウンキャンパスがあるが、連携しているのか。
- 委員 ・木月小で連携している。
- 事務局 ・K2タウンキャンパスでも、オープンキャンパスで子どもに先端技術をわかりやすく紹介する取組などを行っており、連携を進められる可能性がある。
- 委員 ・図書室の充実などにより子どもの思考力が高まってきているように感じている。朝読書もその後、落ち着いて授業に入ることができる等効果が上がっている。
- ・体力については、色々な取組を行っているが、なかなか結果がでていないので、課題に感じている。

重点施策5について

- 委員 ・ここ数年で、学校施設の整備が進んできたように感じる。防災機能についても数年でかなり向上した。県内でも進んでいる方ではないか。これからも計画的に進めてもらいたい。

重点施策6について

- 委員 ・宮前区地域教育会議でいじめに対する研究を提言した。地域として、いじめにどう取り組めるか考えてきた。重点施策1にも「地域」という要素を入れてほしい。
- 委員 ・地域教育会議は、今検討されている「地域の寺子屋」における子どもの学習支援等の受け皿となりうる。従来の取組から一歩進めていきたい。
- 委員 ・ボランティア活動に参加すると、女性が大半を占めているように感じる。シニアの男性が入りやすくなるとよい。

その他、全体を通じて

- 委員 ・多文化共生に関わる取組の記述がうすいように感じる。川崎では重要な要素。グローバル化が今後10年でさらに進み、外国人労働者が増える等地域も変わる。今後、多文化共生はますます重要となる。
- 委員 ・国の教育委員制度の改革に関する法改正があれば、教育プランの内容も市長との協議対象になってくるだろう。
- 委員 ・重点施策1から6は重なり合うところもあり、横のつながりを意識して、プランをつくっていった方が、川崎の教育のよいところを表現しやすいのではないか。

協議題 次期かわさき教育プラン策定に向けた考え方及びプランの全体像について

(企画課長説明)

意見なし

報告 今年度の川崎市教育改革推進協議会について

(企画課長説明)

- 委員 ・(仮称)教育フォーラムとはどのようなものか。
- 事務局 ・教育関係者のパネルディスカッション等を行う予定。